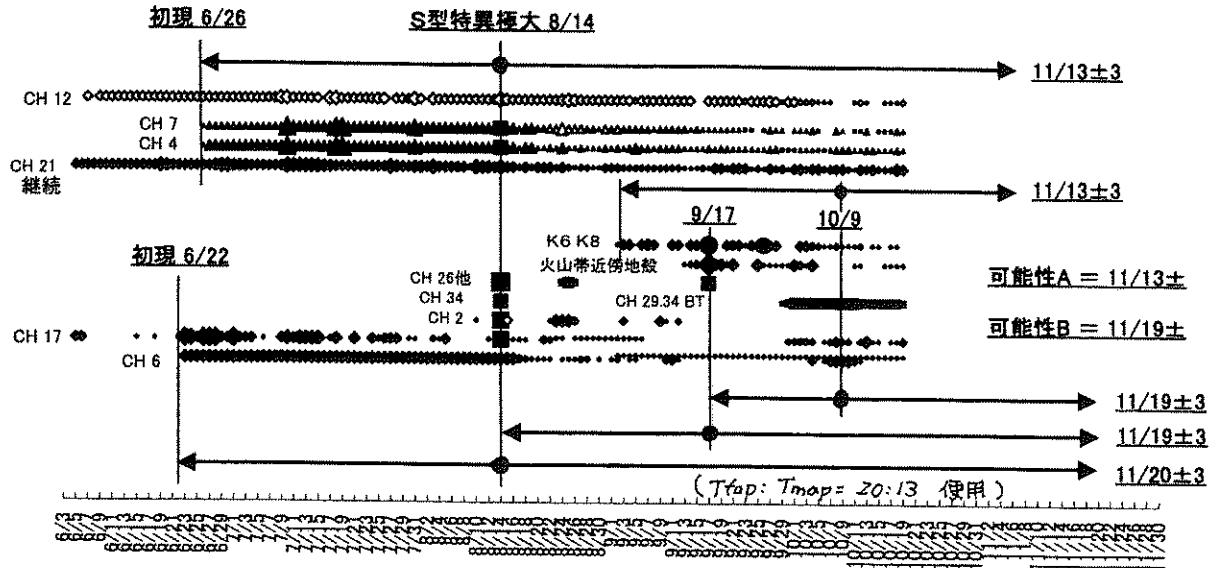


原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続地殻大型地震推定前兆 現況続報 11月10日以前発生は否定可

長期継続特殊前兆No.1778の現況続報です。
10/8にCH12特異が一旦終息したことを8/14極大に対する前兆終息の可能性として計算した場合、10月25日±発生の可能性も示唆されました。
但し、これが正しい場合は、10月17日±に前兆終息が認められる筈で、認められない場合は、10月中発生の可能性は否定され、11月の可能性となることも報告致しました。



実際は、本日10月19日夕刻現在、継続出現の前兆に終息変化は認められず、10月中に発生となる可能性は否定できません。あらためて、現在の第8予-前兆群の出現状況を見ますと、前兆が継続出現し出した初現は「6/22」と「6/26」です。極大は「8/14」「9/17」そして「10/9」が確認できます。8/14極大の他は各極大認識日を中心に複数観測装置に前兆が出現しています。

初現6/26~極大8/14の関係からは、11月13日±の可能性が計算されます。
初現6/22~極大8/14の関係からは、11月20日±の可能性が計算されます。
今回の第8予-前兆の極大は特殊な出現形態です。そこで、各極大を次の極大の初現と仮定して計算してみますと、上図の右下に記したとおり、11月19日±が計算されます。どちらの可能性が正しいのか現段階では推定困難です。実際の変化を見て推定する必要があります。少なくとも、11月10日以前の発生は否定できると言えます。

10/15より鳥取中部で震源の深さ08km程の小規模地震が多発しております。(震源情報=気象庁暫定値)震源地は火山である大山の東約20数km程の位置です。現在迄に発生した地震は全てM5未満で前兆検知不可能規模ですが、9/17に観測された火山帯近傍地殻地震前兆(M6.7±相当)が気になります。9/17同日、CH23にPBFが約30時間観測され、M6.6±0.5相当の活動の可能性が示唆されましたが、波形からは新居浜局ではなく、伊豆局で出現した可能性と認識しています。09月初旬初現~9/17極大からは10月14~15日±が計算され、鳥取中部の活動時期と合、断層長30km±相当として、M4±地震が20回程度発生すると調和することとなります。しかし、極大9/17同日にK6にもBFが有、基線に対し両側局が認識でき、CH23-PBFからも伊豆局と認識されるため、波形の曲線の向きを誤認識していなければ、無関係であると認識されます。

さて、右上図は、現在の推定が正しい場合のNo.1778からの可能性が考え易い参考推定領域の中で過去に発生したM8±地震です。M8.0は濃尾地震で、国内で発生した内陸地殻地震の最大級規模です。震央を黒楕円で示してありますが、
◆推定領域：右図 太線内=大枠推定領域 斜線域=可能性が考え易い参考推定領域
◆推定規模：M7.8±0.5
◆推定時期：※今後の前兆終息変化を鑑み推定予定(現状考え易い時期) 可能性A=11月13日±2 可能性B=11月19日±2
◇推定地震種：震源浅い(数km~20km±)地殻地震
◇推定発生時刻：AM, 9:00±1(or PM, 6:00±3) C) Copyright 2015 YSBO 八ヶ岳南麓天文台

